但馬家畜市場

カウカウ情報2026

9月市



光都農業改良普及センター

９月９日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が９０万３千円、雌が８９万９千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤　佐	9	0.977	958,344	3	0.760	861,667	12	934,175
丹波篠山	8	0.923	869,550	2	0.805	817,850	10	859,210
丹　波	22	0.968	932,100	15	0.842	879,560	37	910,800
朝　来	10	0.953	943,580	9	0.851	894,300	19	920,237
播　磨	22	0.932	847,700	25	0.841	829,928	47	838,247
美方郡	57	0.992	894,512	43	0.876	949,095	100	917,983
豊　岡	16	0.955	880,069	11	0.859	892,700	27	885,215
養　父	28	0.957	932,368	22	0.853	911,050	50	922,988
摂津・神戸	8	0.947	910,800	8	0.872	892,375	16	901,588
県北C	1	0.858	881,100	1	0.781	892,100	2	886,600
市場全体	181	0.965	903,398	139	0.855	898,676	320	901,347

9月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	茂和美波	7	0.974	933,586	9	0.912	970,933	16	954,594
2	忠味土井	34	0.971	935,582	17	0.848	953,765	51	941,643
3	丸若土井	31	0.966	948,094	13	0.804	888,123	44	930,375
4	山伸土井	30	1.001	932,470	25	0.906	909,040	55	921,820
	総計	181	0.965	903,398	139	0.855	898,676	320	901,347
5	忠正土井	6	0.951	918,133	7	0.834	885,029	13	900,308
6	丸春土井	21	0.939	898,176	17	0.850	901,935	38	899,858
7	茂貴波	16	1.007	902,138	8	0.827	844,250	24	882,842
8	杉広土井	7	0.935	868,843	9	0.831	873,278	16	871,338
9	悠森土井	7	0.912	862,557	9	0.815	859,589	16	860,888

価格は税込み　（10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載）

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩　留	脂肪交雑
1	茂和美波	B	A	C	C	B	A
2	忠味土井	B	A	A → B	B → C	A	A
3	丸若土井	B	A	A	A	A	A
4	山伸土井	A	A	D	A	A	A
5	忠正土井	C → D	C	A	C	B	B
6	丸春土井	C	B	C	B	B	A
7	茂貴波	A → B	A	D	D	C	B
8	杉広土井	C	A	B	B	A	B
9	悠森土井	C	C	B → C	B	C	A

バックナンバーはこちらから

北部農業技術センター提供（育種価評価は令和8年4月現在）

再確認！いま繁殖経営で重要なこと

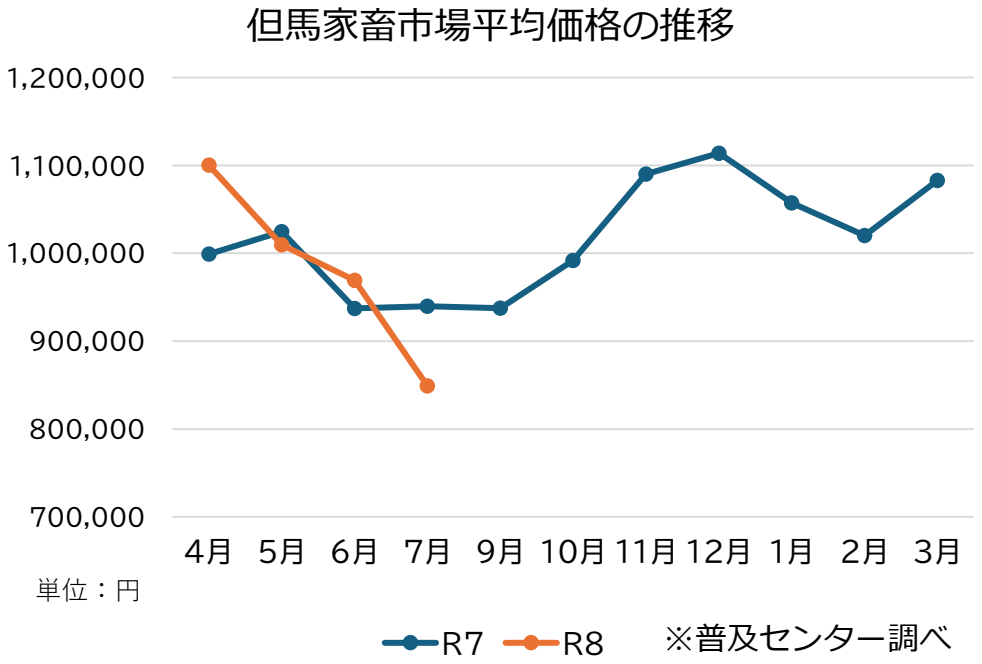
～子牛価格が低調の今こそ、生産性向上を～

・はじめに

昨年の子牛価格が高値だったこともありますが、今年の７月市は昨年から 10 万円ほど平均価格が下がりました。また、飼料や資材価格は、依然として高い水準にあり、繁殖経営を取り巻く環境は好ましいとは言えません。

子牛相場は牛肉需要や景気動向など様々な外部要因に左右されるため、個々の農家が変えることはできません。一方で、農場内の生産性は日々の管理によって改善することが可能です。

低調な相場の今だからこそ、改めて繁殖管理の基本を再確認し、母牛 1 頭当たりの生産性向上を目指すことが重要です。

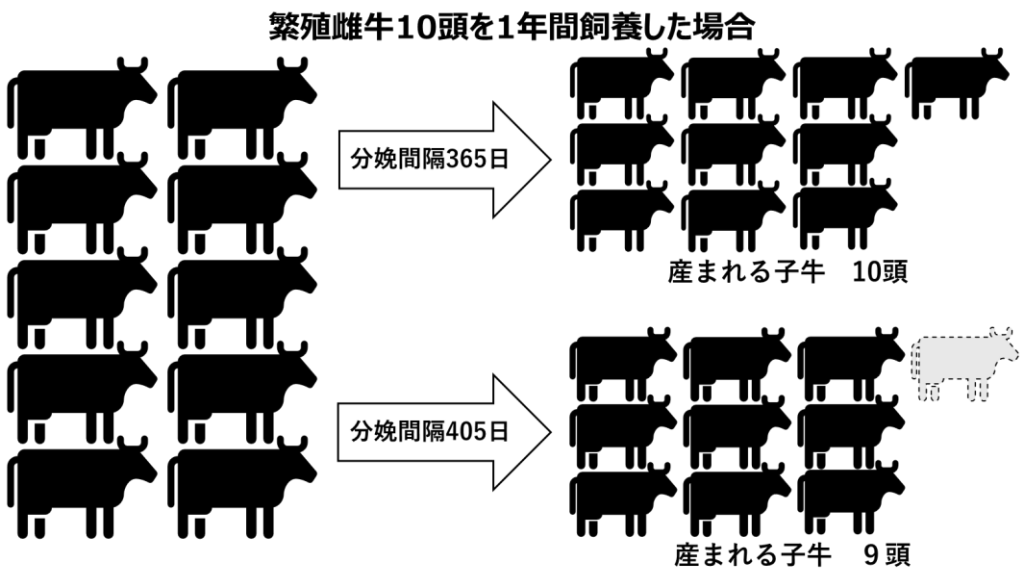


・平均分娩間隔が 40 日違うと…

当たり前の話ですが、繁殖経営では母牛を維持するための費用が毎日発生します。同じ頭数を飼養していても、より多くの子牛を生産できる農場ほど生産性が高く、経営の安定につながります。

生産性向上のカギになるのは「分娩間隔」です。

分娩間隔が短いほど、母牛１頭から生産される子牛の頭数は増加します。反対に、発情の見逃しや受胎の遅れなどによって分娩間隔が長くなると、その分だけ生産頭数が減少し、母牛１頭当たりの生産性は低下します。



繁殖雌牛10頭飼養の場合

	分娩間隔365日	分娩間隔405日
繁殖雌牛の1年間の飼養費（1日当たり1,100円と仮定）	1,100円×365日×10頭＝4,015,000 ①	
子牛1頭を出荷するまでの飼養費（1日当たり1, 100円と仮定）	1,100円×270日＝297,000 ②	
1年間の飼養費	6,985,000 ①＋(②×10頭)	6,688,000 ①＋(②×9頭)
子牛販売価格（令和8年7月平均で計算）	8,489,600	7,640,640
子牛販売価格ー飼養費	**1,504,600**	**952,640**

※それぞれの飼養費は農林水産省「肉用牛生産費調査」等を基に数値を整理したもの

年間約 55 万円の収入の差が生まれる！

上記の図のように 1 年 1 産ではなく分娩間隔 405 日だと、年間で約 55 万円の収入の差が生まれます。母牛 1 頭当たりだと約 5 万 5 千円の差が生まれるので、分娩間隔を短縮し、農場全体で 1 年 1 産を達成できるよう管理を行い、生産性を高めましょう。

・繁殖管理のポイントを再確認

繁殖成績向上は、基本的な管理の積み重ねが重要です。改めてチェックポイントを再確認しましょう。

繁殖管理の「キホンのキ」の話にはなりますが、この積み重ねが将来の経営安定につながります。

冒頭にも書きましたが、子牛価格は外部要因に左右されます。逆に、繁殖成績の向上は繁殖和牛農家の皆さんにしかできません。改めて、農場内の状況を確認してみましょう。

- ☑ **発情兆候を見逃さず、発情発見できていますか？**
- ☑ **発情確認後、適期に授精できていますか？**
  （発情（スタンディング）発現後４～16 時間が適期）
- ☑ **過肥や痩せすぎでない栄養管理ができていますか？**
- ☑ **繁殖記録を見返せるように記録をつけていますか？**